

持続可能な価値を創造する 次世代の育成を

公益社団法人日本バリュー・エンジニアリング協会 会長
鈴木 佑司 (公益社団法人日本ユネスコ協会連盟 理事長)



このたび、2022年6月17日に開催された日本VE協会の総会および理事会において、斎藤保・前会長の後を受けて7代目会長に選任され、就任いたしました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

斎藤前会長は「社会に新たな価値を生み出し、多くの社会的課題を解決するために、VEを新たなステージへと進めていく」という素晴らしいテーマを掲げられ、「サステナブル・バリュー・デザイン」などの概念構築に努めてこられました。また、教育分野へのアプローチにも積極的に取り組まれ、目的思考で大胆な教育改革に取り組んでおられる東京都千代田区立麴町中学校の工藤勇一校長先生（当時）と対談をされ、教育という領域でもVE的思考が有効であるとの確信を得られたようです。

私が理事長を務める公益社団法人日本ユネスコ協会連盟でも、日中韓の高校生が一堂に会してSDGs（持続可能な開発目標）の取り組みに関するワークショップを行った際、斎藤前会長のご支援を受け、VE的思考を用いたファシリテーションを試験的に実施いただきました。議論の整理や合意形成等において効果を発揮し、そうした場面でもVE的思考が違和感なく適用できることが分かりました。

私自身はVEの専門家ではありませんが、斎藤前会長からのご教示や前述のような事例を通じて、VEはものづくりの領域のみならず、あらゆる領域で適用可能なのだと理解するに至りました。

そのような背景から今回、会長の職を拝命しましたが、今後は斎藤前会長が掲げられた「社会に新たな価値を生み出し、多くの社会的課題を解決するために、VEを新たなステージへと進めていく」というテーマを継承し、引き続きVEを進化させ、また次世代を育成すべく、皆様のお力を借りながら取り組んでまいりたい所存です。

2015年9月に国連サミットで「SDGs」が採択され、国際社会全体の開発目標として、2030年を期限とする包括的な17の目標と169のターゲットが掲げられました。世界各国がSDGsの達成に向けて走り出し、日本もやや遅れ馳せながら政府、自治体、企業、団体等が熱心に取り組み始めています。

しかし、世界をつぶさに見渡せば、未だに貧困や差別、戦争・紛争の拡大、環境破壊など様々な問題が見えてきます。今日を生きるための食糧や医療などの緊急支援はもちろん大切ですが、こうした問題を根本から解決するための知恵や工夫、それらを実践する地道な活動の継続こそが必要です。

何より、平和で公正な社会を築くための基盤となるのが教育です。教育は、人々の心の中に平和のとりでをつくる、貧困の連鎖を断ち切る力になる、文化や自然を尊ぶ心を育てる、そして明日を生きる希望となります。SDGs教育の効果もあってか、過度に利益を追求し、株主優先の経営姿勢に対し、最近では若者達が「NO」を突きつけ、社会への貢献や企業の存在意義を明確に示すことを求め始めているようです。「御社のパーパス（存在意義）は？」という問いかけに、多くの企業が直面し、戸惑っているといえます。何かそれらしい経営理念を掲げればよい、という話ではありません。社員一人ひとりが自社のパーパスに共鳴し、日常の活動に実装できなければ意味がありません。

また、企業を取り巻く環境では、ESG投資やインパクト投資を包括する「サステナブル投資」の概念が広がって運用資産に占める比率も伸び、主流化しつつあると聞きます。こうした状況に対処することも含め、「持続可能な価値（Sustainable Value）を創造できる人材（Value Designer）の育成」は急務であろうと確信する次第です。